

## セミナーテーマ 『マイノリティを生きる子どもの心と支援』

### コース① LGBTQの子どもを理解する—多様な生き方を受け入れること

吉田圭吾 教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



“自分らしく生きる”ということは、“マイノリティとして生きる”という可能性を含んでいます。自分の生物学的な性との違和感に対して正直になることができる現代だからこそ、ダイバーシティな生き方を選択する自由があります。自らの生き方としてLGBTQを選ぶ子どもは、発達の中で徐々にセクシュアリティやジェンダーの問題に気づいていくだけに、なかなかカミングアウトできずに、心の底で深く悩みます。差別のない社会、マイノリティに対して受容的な社会の一員になるためにも、LGBTQについて考えてみませんか？

### コース② 周りの子となじめない子ども達について

伊藤俊樹 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



近年、不登校の子ども達については、色々取り上げられますが、周りの子ども達となじめない子ども達については、あまり取り上げられないように思います。いわゆる集団不適應と呼ばれる子ども達です。彼らは、ちょっとしたことでキレたり、暴力をふるったり、相手が嫌なことを平気で言ったりします。しかし、彼らがそのようなことをしてしまうには、そうならざるを得ない心理的背景があります。そのような背景について解説し、彼らとどのようなコミュニケーションを取っていったら、彼らの問題が少しでも解決していくかを考えたいと思います。

### コース③ 特異な感覚世界を生きる子どもたち—感覚処理からみる子どもの困難と手立て—

山根隆宏 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



子どもが家庭や学校でつまずきやすいとき、もしかすると独特な感覚や知覚の特性をもつことが原因かもしれません。就学前では「我慢ができない」「こだわりが強い」「偏食が多い」など、学校では「集団行動が苦手」「何度やっても字を覚えられない」「勉強についていきにくい」など、その子どもの感覚の特徴をつかむと、なぜつまずくの？という疑問に答えがみつかるかもしれません。当日は、ふつうとはちょっとちがうけど、ユニークな感覚世界を生きる子どもたちの理解やサポートについて考えたいと思います。

### コース④ きこえない・きこえにくい子どもたちの心・ことば・家族

河崎佳子 教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



聴覚に障害をもつ赤ちゃんや子どもたちはどんなふうにコミュニケーションに出会い、ことばを獲得し、人とかがわる力を培っていくのでしょうか。きこえる親ときこえない子、きこえない親ときこえる子、共にきこえない親と子。それぞれの親子に異なる体験があり、求められる理解と支援があります。きこえない子どもたちの体験と育ちに触れることで、コミュニケーションとは何か？ことばとは何か？言語力とは何か？家族関係とは何か？について新たな気づきを得るきっかけになればと願います。お子さま連れのご参加も歓迎します。

## 参加者へのお願い

- 会場には、子どもたちを遊ばせるスペースはありますが、託児はおこないません。お子様については、各保護者の方が責任をもって見ていただくようお願い致します。
- 各コース定員（先着 25 名）に達した場合には、受付を終了いたします。受講可能な方には、追ってメールにてご連絡差し上げます。また、キャンセルの場合にはできるだけ早めにご連絡ください。

